スポーツ社会学(1)(2)	講義	講師　菅谷　美沙都	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの選択必修科目 スポーツトレーナーコースの専門選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11312101 12220117 13220118 11532104 12532104 13532104

１．授業のねらい・概要

オリンピックやワールドカップなど，世界的なスポーツイベントに対する国民の関心の高まりに象徴されるように，現代においてスポーツは強大な社会現象あるいは文化現象となりつつある。現代社会における生活や健康，さらには生きがいや福祉というキーワードはますます重要になっており，スポーツは私たちにとって必須の生活文化となりつつある。

人々はなぜスポーツを実施したり観戦したりするのだろうか。現代社会におけるスポーツの意味や価値をどのように理解するかは，種々のスポーツ指導者やスポーツ関連の職を目指すものにとって，専門性を問う基礎的な教養として非常に重要なことである。スポーツの起源や発展過程を歴史的な文脈で理解し，スポーツが人間や社会にとってどのような文化的な価値を有しているのか，社会学的な視点からの理解を深める。

２．授業の進め方

授業ではレジュメを配布する。また，隔回授業最後に課題を提出し，授業内容の理解度を確認する。適宜，社会におけるスポーツの課題に関する新聞記事や資料を配布する。

３．授業計画

１．オリエンテーション（授業の進め方，成績と評価について等） ２．スポーツの概念と歴史①（スポーツとは何か，スポーツの歴史的発展） ３．スポーツの概念と歴史②（スポーツの社会的システム） ４．文化としてのスポーツ①（日本人のスポーツ観） ５．文化としてのスポーツ②（スポーツマンシップとフェアプレイ） ６．社会の中のスポーツ①（スポーツの多様化） ７．社会の中のスポーツ②（スポーツマンガの社会学） ８．社会の中のスポーツ③（スポーツの産業化，スポーツと経済）	９．学校の運動部活動をめぐる問題①（教員の過重負担） 10．学校の運動部活動をめぐる問題②（部活動の地域展開） 11．みるスポーツとは何か（スペクテイタースポーツの理解） 12．障がい者とスポーツ 13．こどものスポーツ環境を考える 14．スポーツと暴力の社会学 15．現代社会におけるスポーツの課題（新しいスポーツのかたち）

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業時に配布するレジュメや資料等を復習し，疑問点を明確にしておくこと。また，次回の講義内容に関する情報収集をしておくこと（新聞記事などを事前に配布することもある）。これらの自主学修には２時間以上が必要である。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の直後，解答のポイントや評価の基準に関する説明を行う。また，授業時の課題については，次回の授業内で優秀な回答例を紹介し評価の基準等の解説を行う。

６．授業における学修の到達目標

スポーツの文化的な価値や意義を理解し，社会学の視点から現代社会におけるスポーツの在り方を思考する力を身につける。

７．成績評価の方法･基準

期末レポート（50%），授業時における課題（30%），授業態度（20%）をみて総合的に評価する。

８．テキスト･参考文献

教科書は特に指定しない。適宜，資料・プリントを配布する。

参考文献：森川貞夫・佐伯年詩雄　編著「スポーツ社会学講義」（大修館書店，2009）

山田明編　「未来を拓くスポーツ社会学」（みらい，2020）

９．受講上の留意事項

特になし。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

簿記論

２０２６年度

休講

会計学基礎

２０２６年度

休講

ヘルスマネジメント	講義	非常勤講師　一戸　真子	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの選択必修科目，スポーツトレーナーコースの専門選択科目 救急救命士コースの専門基礎分野科目	科目ナンバリング	11312201 13321202

１．授業のねらい・概要

健康を保持すること，健康増進に努めること，病気になっても負けない精神力を身につけることなど,「ヘルスマネジメント」能力は生きていく上で非常に重要であることについて学生が理解できるよう講義することを目的とする。また，私達人間は生物であり，動物でもあり，運動機能の発達は私達人間の生活を豊かにしてきたことを理解し，健康の保持・増進にとって重要な各機能や要素について学習し，ヘルスマネジメント能力の向上に必要な視点について理解を深められるよう講義する。

２．授業の進め方

テキストの内容に沿った講義形式を基本とする。振り返りシートを活用して，理解を深められるよう工夫する。

３．授業計画

１．健康の定義：WHOの定義	９．感染症，非感染性疾患と健康
２．健康日本21，生活習慣病	10．行動変容，遺伝要因と環境要因
３．ヘルスプロモーション，プライマリヘルスケア	11．アスリートの健康管理
４．ライフサイクルと健康	12．スポーツによる精神障害と対策
５．こころとからだの関係	13．ストレスマネジメント，ストレスコーピング
６．食と栄養と健康	14．セルフケアの重要性
７．運動・スポーツと健康	15．ヘルスマネジメント能力の向上に必要な要素
８．休養・睡眠と健康	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

次回の授業テーマに関するテキストを読み込んでおくことと，各授業後に指示する課題についてまとめておくこと。これらの予習・復習の時間には2時間以上必要とする。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施後，解答などを掲示板に掲示する。

６．授業における学修の到達目標

1.健康の定義を理解し，栄養，運動，休養・睡眠の重要性について説明できる。
2.スポーツと人間の健康との関係について理解でき，アスリートの健康管理に重要な視点について説明できる。
3ヘルスマネジメント能力の向上に必要な要因，およびセルフケアの重要性について説明できる。

７．成績評価の方法･基準

期末試験（60%），レポート（40%）によって評価する。

８．テキスト･参考文献

テキストは，山崎喜比古監修，朝倉隆司編（2021)『新・生き方としての健康科学（第二版)』有信堂高文社（ISBN 9784842065960）を使用するので，毎回の授業に必要となる。参考書は,『リファレンスブック』日本スポーツ協会，その他必要に応じてプリントを配布，参考書については必要に応じて講義時に紹介する。

９．受講上の留意事項

本講義の受講をきっかけに，自らのヘルスマネジメント能力を向上させるよう積極的に受講して欲しい。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，医療施設や福祉施設評価に関する実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ行政論	講義	講師　菅谷　美沙都	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの選択必修科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11310201 13220208

１．授業のねらい・概要

我が国のスポーツ行政について，国・都道府県・市町村別のスポーツ政策や行政組織を理解すると共に，スポーツ基本法が示す要点を確認し，地域スポーツ振興やオリンピック選手育成にかかる競技力向上，スポーツ施設の整備等について政策的な観点から学ぶ。我が国のスポーツ政策を体系的に理解し，国や地方自治体によるスポーツ政策について具体的な事例を取り上げながら理解を深める。

２．授業の進め方

スポーツ基本法やスポーツ基本計画，地方自治体のスポーツ推進計画等，実際のスポーツ政策の資料を用いて，条文を解釈する読解力と思考力を高める。

３．授業計画

１．オリエンテーション（授業の進め方，成績と評価について等） ２．スポーツ政策とは何か（スポーツの公共性と政策） ３．スポーツ基本法の成立とその特徴 ４．スポーツ振興法とスポーツ基本法（比較分析） ５．スポーツ基本計画の概要と目的 ６．我が国の競技スポーツ振興政策 ７．地方自治体のスポーツ振興政策 ８．国と地方自治体のスポーツ行政組織・スポーツ財政	９．運動部活動の歴史と政策的展開 10．地域スポーツの振興：総合型地域スポーツクラブとは何か 11．我が国のスポーツ施設と政策 12．地域スポーツ政策の立案①：地域の課題分析 13．地域スポーツ政策の立案②：具体的な事業の企画 14．地域スポーツ政策の立案③：実行のための資源調達 15．まとめ

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前に配布する「スポーツ基本法」や資料を項目別に要点をまとめて授業に臨むと共に，授業時に配布するレジュメや授業ノートを復習しておくこと。これらの自主学修には2時間以上が必要である。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の直後，解答のポイントや評価の基準に関する説明を行う。レポート提出の際，採点のポイント等を説明する。

６．授業における学修の到達目標

スポーツ基本法及びスポーツ基本計画が示す要点を理解し，行政が進める「総合型地域スポーツクラブ」や「運動部活動改革」の意義及び内容を理解した上で，自らスポーツに関する課題解決に向けた政策を立案できる論理的思考力・創造力を身につける。

７．成績評価の方法･基準

リアクションペーパー及び中間テスト（50%），期末レポート（30%），授業態度（20%）をみて総合的に評価する。

８．テキスト･参考文献

教科書は特に指定しない。適宜，資料・プリントを配布する。

９．受講上の留意事項

特になし。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，スポーツ行政組織における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツマネジメント論	講義	講師　菅谷　美沙都	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの選択必修科目，スポーツトレーナーコースの専門選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11312202 12220203 13220204 11531201 12531201 13531201

１．授業のねらい・概要

我が国におけるスポーツは，学校体育にみられる教育的価値の実現を前提として発展してきたが，社会の変化とともにスポーツの楽しさや喜び，健康増進等多様な価値が見出され，人々の生活の中に取り込まれるようになった。スポーツマネジメントとは，文化としてのスポーツと人々との直接的な関わり合いを成立させ，スポーツの持つ文化的な価値がより多くの人々に享受されるように促す営みである。よって，スポーツマネジメントは経済的利潤のみを目的とするものではなく，人々の豊かなスポーツ生活の実現を目指してスポーツを創造し供給することを目的としていることを理解する必要がある。本講義は，スポーツマネジメントの基本概念を理解し，学校体育や地域スポーツ等様々なスポーツ実践領域におけるマネジメントの考え方を学ぶ。

２．授業の進め方

授業ではレジュメ等を配布する。また，隔回授業中に課題等を提出し，授業内容の理解度を確認する。

３．授業計画

１．オリエンテーション（授業の進め方，成績と評価について等） ２．スポーツマネジメントの概念と実践領域 ３．スポーツマネジメントの構造 ４．運動者と運動者行動 ５．豊かな運動生活の捉え方 ６．体育・スポーツ事業と経営資源 ７．体育・スポーツ事業の運営：エリアサービス事業 ８．体育・スポーツ事業の運営：プログラムサービス事業	９．体育・スポーツ事業の運営：クラブサービス事業 10．スポーツマネジメントと学校体育 11．学校運動部活動のマネジメント 12．スポーツ組織のマネジメント 13．地域スポーツのマネジメント 14．スポーツ事業の評価，マネジメントサイクル 15．まとめ

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業時に配布するレジュメや資料等を復習し，疑問点を明確にしておくこと。また，次回の講義内容に関する情報収集をしておくこと。これらの自主学修には2時間以上が必要である。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の直後，解答のポイントや評価の基準に関する説明を行う。また，リアクションペーパーについては，記述内容のポイントや評価の基準に関する説明を次週の授業内で行う。

６．授業における学修の到達目標

スポーツマネジメントの目的や基本概念を理解し，スポーツの現代的な課題に対してスポーツマネジメントの視点から考察できるようになることを目標とする。

７．成績評価の方法･基準

期末試験（50%），課題・ミニレポート（30%），授業態度（20%）をみて総合的に評価する。

８．テキスト･参考文献

教科書は特に指定しない。適宜，資料・プリントを配布する。

参考文献：柳沢和雄・木村和彦・清水紀宏　編著「テキスト体育・スポーツ経営学」（大修館書店，2017）
柳沢和雄・清水紀宏・中西純司　編著「よくわかるスポーツマネジメント」（ミネルヴァ書房，2017）
畑攻・小野里真弓　編著「基本スポーツマネジメント」（大修館書店，2017）

９．受講上の留意事項

特になし。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

地域スポーツ論		講義	教授　小笠原　正志	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの選択必修科目，スポーツトレーナーコースの専門選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目		科目ナンバリング	11312203 11532205 12220204 12532205

１．授業のねらい・概要

人生 100 年時代の到来が予測されている。人生が長くなればなるほど，健康体をより長く維持していくことのできる持続可能な社会を構築していくことが求められている。とりわけスポーツは，心身の健康を維持する上で重要な役割を果たすことは明らかである。国民ひとりひとりが，生涯にわたって身近な地域でスポーツに親しむことを可能とする環境づくりは，人生 100 年時代における必須の社会課題といえる。

近年では，プロスポーツチームのホームタウン性による地域活性化や，総合型地域スポーツクラブによる地域住民のスポーツ活動の促進など，スポーツを通した地域づくりが注目されている。また，認知症予防や介護予防のために，高齢者向けの筋力トレーニングを地域で実践するなど，地域に根差したスポーツの普及の仕組みづくりが模索されている。

そこで，本講義では，地域スポーツの意義やその機能を理解するとともに，具体的な実践例を通して，生涯にわたるスポーツの実践と地域づくりについて学習する。

２．授業の進め方

地域スポーツ論の基本概念を理解するとともに，様々な実践例を用いて具体的なプログラムなどの提案を検討する。地域スポーツの具体的な内容について調査し，レポートにまとめる。

３．授業計画

１．ガイダンス	９．健康運動の地域への普及（持続可能な普及方法）
２．スポーツ少年団からスポーツと地域を考える	10．スポーツツーリズムとまちづくり
３．地域におけるスポーツ振興方策と行政の関わり	11．総合型地域スポーツクラブの実際例
４．スポーツ基本法とスポーツ基本計画	12．プロスポーツと地域貢献
５．総合型スポーツクラブの必要性と社会的意義	13．プロスポーツと地域貢献（農業振興）
６．総合型スポーツクラブのマネジメント（育成・運営）	14．Ｊリーグと地域貢献　川崎フロンターレの実例
７．地域スポーツクラブの活動拠点の確保	15．日本ハムファイターズの球場再生事業
８．健康運動の地域への普及（人件費・事業費）	講義のまとめ

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでにテキストや資料を活用して予習し，講義内容を復習しておくこと。これらの準備学修には，１時間程度が必要である。新聞やインターネット等を通して，地域における様々なスポーツ活動に関する情報を得ること。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題に関しては次回の講義で数人に発表してもらい講評する。最終課題についてのそれぞれの発表時に講評する。

６．授業における学修の到達目標

地域における様々なスポーツについて学習し，関心を高めるとともに理解を深めていく。

自分の住む町の地域スポーツクラブ，スポーツイベントに参画，協力することができる。

７．成績評価の方法･基準

講義への参加意欲ならびに各回の課題への取り組み状況（50%），および期末レポート（50%）により総合的に評価する。ただし，講義回数の 3 分の 1 以上欠席した者は評価の対象としない。

８．テキスト･参考文献

小笠原正志，「健康生活とスポーツ」，SIS，2024。その他講義資料は必要に応じて配布する。

参考図書：山口泰雄「地域を変えた総合型スポーツクラブ」　大修館書店（2006）

二杉茂ら「地域スポーツクラブ指導者ハンドブック」　晃洋書房（2009）

木田悟ら「スポーツで地域を拓く」東京大学出版会　(2013)

９．受講上の留意事項

私語および携帯電話の使用，飲食，帽子の着用は禁止とする。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，企業における運動指導に関する実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツイベント論		講義	非常勤講師　武田　作郁	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの選択必修科目，スポーツトレーナーコースの専門選択科目		科目ナンバリング	113112204

１．授業のねらい・概要

経済産業省とスポーツ庁は，スポーツを成長産業と位置付け，2016 年に 5.5 兆円だったスポーツ産業規模を 2025 年までに 15 兆円にまで発展させる政策を打ち出している。欧米に比べて遅れてきた日本のスポーツ産業は今まさに変革の時を迎えている。本授業では，スペクテイタースポーツ，エンターテインメントとしてのプロスポーツや地域課題解決のためのスポーツイベントを例に，歴史を振り返りながら，スポーツイベントの現状と展望を考察する。

２．授業の進め方

パワーポイントの資料や映像を用いた講義形式で授業を進めていく。

３．授業計画

1．ガイダンス	9．スポーツイベントの経営戦略
2．スポーツ文化とイベント	10．スポーツイベントと政治
3．駅伝	11．地域課題とスポーツイベント（高齢化社会）
4．欧米のプロスポーツ経営（アメリカ）	12．地域課題とスポーツイベント（姉妹都市交流）
5．欧米のプロスポーツ経営（ヨーロッパ）	13．スポーツイベントのインパクト（レガシー）
6．ヨーロッパ型スポーツ経営（スペイン）	14．スポーツイベントが抱える社会的課題
7．ヨーロッパ型スポーツ経営（ドイツ）	15．まとめ
8．スポーツイベントの収益構造と商業化	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業開始までに前回の授業内容を復習し，疑問点などを明確にしておくこと。これらの準備学習には 2 時間程度が必要である。また，日常的に新聞，テレビ，ラジオにおけるスポーツやニュースに注意を向けて，関連する事柄の情報収集を怠らないこと。これらの準備学習には 2 時間程度必要である。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内で適宜解説する。

６．授業における学修の到達目標

プロスポーツの歴史と現状を学び，スポーツビジネスとはなんたるかを理解する。また，地域課題と手段としてのスポーツを結びつける実践的なスポーツ活用事例を理解する。その上で，生涯を通してスポーツとどのように関わっていくことができるかを想像できるようになることを目標とする。

７．成績評価の方法･基準

受講態度+レポート課題への取り組み（60%），期末課題（40%）により評価する。

８．テキスト･参考文献

特定のテキストは使用しない。参考文献は適宜紹介する。

９．受講上の留意事項

特になし。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当なし。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

メディアスポーツ論	講義	非常勤講師　武田　作郁	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの選択必修科目，スポーツトレーナーコースの専門選択科目	科目ナンバリング	11312205

１．授業のねらい・概要

現代社会において，スポーツに関する情報は，テレビやインターネットを通じてリアルタイムに全世界へと配信され，人々の関心を集める重要なコンテンツのひとつになっている。本授業では，スポーツとメディアの歴史やスポンサーなどのステークホルダーとの関係性，メディアの影響力について学びながら，スポーツとメディアの関わり合いについて理解を深めていく。

２．授業の進め方

パワーポイントの資料や映像を用いた講義形式で授業を進めていく。

３．授業計画

１．ガイダンス	９．メディアスポーツの社会的意義
２．メディアスポーツとは	10．スポーツメディアと映像技術
３．スポーツ報道の歴史	11．スポーツ観戦の変容（ニューメディア）
４．メディアの変容（ジャーナリスト，ラジオ）	12．スポーツ観戦の変容（テクノロジー）
５．メディアの変容（テレビ，雑誌，IT）	13．スポーツ観戦の変容（スポーツメディアビジネス）
６．メディアスポーツの魅せ方	14．スポーツとメディアに関わる法と政策
７．スポーツの物語性とメディア（駅伝）	15．まとめ
８．スポーツの物語性とメディア（アニメ）	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業開始までに前回の授業内容を復習し，疑問点などを明確にしておくこと。これらの準備学習には 2 時間程度が必要である。また，日常的に新聞，テレビ，ラジオにおけるスポーツやニュースに注意を向けて，関連する事柄の情報収集を怠らないこと。これらの準備学習には 2 時間程度必要である。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内で適宜解説する。

６．授業における学修の到達目標

スポーツとメディアの歴史や，スポーツにおけるメディアの役割を理解し，スポーツ参加者，実施者とメディアの良好かつ発展的な関係性を考察することができる。

７．成績評価の方法･基準

受講態度+レポート課題への取り組み（60%），期末課題（40%）により評価する。

８．テキスト･参考文献

特定のテキストは使用しない。参考文献は適宜紹介する。

９．受講上の留意事項

特になし。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当なし。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツマーケティング		講義	講師　菅谷　美沙都	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの選択必修科目，スポーツトレーナーコースの専門選択科目		科目ナンバリング	11312207

１．授業のねらい・概要

オリンピックの放映権料収入やプロスポーツにおけるスポンサーシップ等，現代のスポーツではビジネスの効率性を高める先端的なマーケティングが不可欠になっている。スポーツマーケティングとは，単に収益性を求めるビジネス手法ではなく，スポーツの価値向上や社会的課題に対する貢献といった考え方が根幹にあることを押さえる必要がある。本講義では，スポーツマーケティングの基礎理論を学び，スポーツ文化の発展に資するスポーツマーケティングの在り方を考える。なお,「スポーツマネジメント論」を履修していることが望ましい。

２．授業の進め方

授業前半（第１回～第５回）は講義形式で行い，資料やレジュメを配布する。授業後半（第６回以降）は，実際のスポーツマーケティングを想定したグループワークを実施し，最終的にグループごとにプレゼンテーションを行う。

３．授業計画

１．オリエンテーション（授業の進め方，成績と評価について等） ２．スポーツマーケティングの定義・特性・本質 ３．スポーツプロダクト ４．スポーツ消費者の理解 ５．マーケットリサーチの考え方 ６．スポーツマーケティングの実践①（企画設定・調査のデザイン） ７．スポーツマーケティングの実際②（調査票の作成） ８．スポーツマーケティングの実際③（調査実施１）	９．スポーツマーケティングの実際④（調査実施２，データ入力） 10．スポーツマーケティングの実際⑤（データ入力の確認） 11．スポーツマーケティングの実際⑥（データ分析） 12．スポーツマーケティングの実際⑦（データの考察） 13．グループプレゼンテーションの作成 14．グループプレゼンテーション① 15．グループプレゼンテーション②・まとめ

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

グループワークとプレゼンテーションにおいては，メンバーで議論を重ねてより良い企画を考案するよう努めること。これらの自主学修には２時間以上が必要である。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

グループプレゼンテーション実施時に口頭で評価を伝える。

６．授業における学修の到達目標

スポーツマーケティングの基礎理論を理解し，スポーツ消費者の分析やマーケットリサーチの手法を身につける。

７．成績評価の方法･基準

提出課題（40%），グループワークへの取り組み姿勢（40%），プレゼンテーション（20%）から総合的に評価する。

８．テキスト･参考文献

教科書は特に指定しない。適宜，資料・プリントを配布する。

９．受講上の留意事項

授業時間内で分析が終わらない場合は，授業時間外にグループで集まって作業等を進めること。また，グループワークではエクセル及びパワーポイントを使用するので，各自使えるようにしておくこと。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ施設管理論	講義	講師　菅谷　美沙都	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの選択必修科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11310202 13220207

１．授業のねらい・概要

スポーツ施設の管理運営における基本と実践について理解する。

人々のスポーツ実践の主たる場は，運動・スポーツ施設であり，様々なスポーツ施設は人々のスポーツ活動の質と量を規定する性質を有する。本講義では，運動・スポーツ施設の基本的機能を理解し，スポーツ施設の効率的な管理運営，すなわちスポーツファシリティマネジメントの基礎理論を学ぶ。さらに，我が国におけるスポーツ施設の管理運営事例を取り上げ，スポーツ施設整備の在り方や管理運営の手法について理解を深める。

なお,「スポーツ産業論」を受講していることが望ましい。

２．授業の進め方

隔回授業最後に課題を提出し，授業内容の理解度を確認する。適宜，スポーツ施設関連の新聞記事や資料を配布する。

３．授業計画

１．オリエンテーション（授業の進め方，成績と評価について等） ２．我が国のファシリティマネジメントの現状 ３．スポーツ施設の基本的な分類と体系 ４．エリアサービス事業とは（ファシリティマネジメントの基礎知識） ５．スポーツ施設産業とスポーツ施設の運営 ６．スポーツファシリティとサービス ７．日本のスタジアム分析 ８．生活圏のスポーツ施設	９．クラブライセンス制度とスポーツ施設の問題 10．スポーツ施設管理運営における人的資源と危機管理 11．スタジアム・アリーナビジネスの手法 12．スポーツ施設における指定管理者制度 13．スポーツ施設におけるネーミングライツ 14．スポーツ施設のバリアフリー化 15．まとめ

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義内容を確認し，疑問点を明確にしておくこと。また，次回の講義内容に関する時事問題（新聞記事などを事前に配布することもある）を自ら調べること。これらの自主学修には 2 時間以上が必要である。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート提出の直後，記述内容のポイントや評価の基準に関する説明を行う。授業の課題については，記述内容のポイントや評価の基準に関する説明を次週の授業内で行う。

６．授業における学修の到達目標

・スポーツ施設運営の基本を理解し，各施設の特徴や経営手法の違いを理解できる。
・我が国のスポーツ施設の現状や課題を検討し，より良いスポーツ施設のあり方についてファシリティマネジメントの視点から考究することができる。
・自分が普段利用（観戦含む）しているスポーツ施設の管理や運営について，授業で学んだ知識をもって分析できる態度を養う。

７．成績評価の方法･基準

授業時における課題（50%），最終レポート（40%）及び授業への取り組み方（10%）から総合的に評価する。

８．テキスト･参考文献

教科書は特に指定しない。適宜，資料・プリントを配布する。

参考文献：原田宗彦・間野義之　編著「スポーツファシリティマネジメント」（大修館書店，2011）
原田宗彦　編著「スポーツ産業論第７版」（杏林書院，2021）

９．受講上の留意事項

特になし。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，スポーツ施設管理運営組織における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ用品市場論	講義	講師　菅谷　美沙都	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの選択必修科目 スポーツトレーナーコースの専門選択科目	科目ナンバリング	11312208

１．授業のねらい・概要

高度経済成長によって国民の暮らしが豊かになり，国民の余暇時間が増大し，スポーツやレジャーを楽しむ場所や機会は飛躍的に増大した。人々のスポーツとの関わり方の変化により，スポーツ産業は急速な発展を見せている。この授業では，スポーツ産業の一領域であるスポーツ用品産業について，我が国のスポーツ用品市場の動向やスポーツ用品産業の歩み，スポーツ用品業界のビジネスサイクル等を理解する。

なお,「スポーツ産業論」を受講していることが望ましい。

２．授業の進め方

授業前半（第１回～第７回）は講義形式で行い，資料やレジュメを配布する。授業後半（第８回以降）は，テーマに沿ったグループワークを実施し，最終的にグループごとにプレゼンテーションを行う。

３．授業計画

１．オリエンテーション（授業の進め方，成績と評価について等） ２．スポーツ用品産業とは ３．我が国のスポーツ用品産業の市場規模 ４．スポーツ用品業界のビジネスサイクルと流通構造 ５．スポーツ消費者を知る①（プロダクト・価格設定） ６．スポーツ消費者を知る②（スポーツ消費者の特性） ７．中間レポート（スポーツ用品小売業の戦略） ８．GW：新しいスポーツ用品の企画①（ブランドビジネス・ターゲティング）	９．GW:新しいスポーツ用品の企画②（ポジショニングマップの作成・価格の設定） 10．GW:新しいスポーツ用品の企画③（流通チャネル・顧客満足） 11．プレゼンテーション①（7～8 グループ） 12．プレゼンテーション②（7～8 グループ） 13．プレゼンテーション③（7～8 グループ） 14．GW 及びプレゼンテーションの全体評価と振り返り 15．まとめ

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

グループワークとプレゼンテーションにおいては，メンバーで議論を重ねてより良い企画を考案するよう努めること。これらの自主学修には２時間以上が必要である。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート提出の直後，記述内容のポイントや評価の基準に関する説明を行う。また，プレゼンテーション実施時に口頭で評価を伝える。

６．授業における学修の到達目標

スポーツ用品市場の動向，スポーツ用品に係るマーケティング戦略を理解する。

スポーツ用品メーカーの経営戦略を理解し，人々のニーズに合った新しいスポーツ用品を開発する企画力，提案力を養う。

７．成績評価の方法･基準

中間レポート（40%），グループワークへの取り組み姿勢（30%），プレゼンテーション（30%）から総合的に評価する。

８．テキスト･参考文献

教科書は特に指定しない。適宜，資料・プリントを配布する。

参考文献：原田宗彦　編著「スポーツ産業論第７版」（杏林書院，2021）

仲澤眞・吉田政幸　編著「よくわかるスポーツマーケティング」（ミネルヴァ書房，2017）

９．受講上の留意事項

プレゼンテーションではパワーポイントを使用するので，各自使えるようにしておくこと。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ産業論	講義	講師　菅谷　美沙都	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの選択必修科目 スポーツトレーナーコースの専門選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11312206 12220213 13220206 11532203 12532203 13532203

１．授業のねらい・概要

私たちにとってスポーツは非常に身近なものとなり，スポーツを楽しむ場所や機会は飛躍的に増大した。スポーツ参加の機会は増えるとともに，私たちはスポーツにおいても消費行動を展開するようになった。この授業では，スポーツ観戦やスポーツ関連商品の消費行動から，プロスポーツのクラブビジネス，プロリーグの構造などスポーツ産業全般を理解するとともに，スポーツ産業の諸領域の今日的な課題を議論する。将来，スポーツ関連の仕事に携わりたいと考えている学生にとって，スポーツの価値を活かし，スポーツ産業界で仕事を創り出すとはどういうことなのか，具体的なイメージを抱けるようになることを目指す。

２．授業の進め方

授業ではレジュメを配布する。また，隔回授業最後に課題を提出し，授業内容の理解度を確認する。

３．授業計画

１．オリエンテーション（授業の進め方，成績と評価について等） ２．スポーツ産業とは（スポーツ産業の領域，スポーツ市場の現状） ３．スポーツ用品産業 ４．スポーツ施設産業 ５．スポーツサービス情報産業（スポーツとメディア） ６．フィットネスクラブのマネジメント（フィットネス産業の現状，サービス特性） ７．クラブ事業のマネジメント（チーム，クラブ，球団，ステークホルダー） ８．オリンピックとスポーツ産業界（オリンピック開催を巡る諸問題）	９．日本のプロスポーツ①（リーグの構造） 10．日本のプロスポーツ②（プロ野球のマネジメント） 11．スポーツスポンサーシップ 12．権利ビジネスとしてのスポーツ（スポーツ選手の契約，企業との権利関係） 13．スポーツファンを知る（みるスポーツとしてのビジネス展開） 14．海外のプロスポーツ（欧州の事例） 15．大学スポーツの産業化を考える／まとめ

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業時に配布するレジュメや資料等を復習し，疑問点を明確にしておくこと。また，次回の講義内容に関する時事問題（新聞記事などを事前に配布することもある）を自ら調べること。これらの自主学修には2時間以上が必要である。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業の課題については，次の授業冒頭で解答のポイントに関する説明を行うとともに，優秀な回答例を紹介し評価の基準等の解説を行う。中間レポートについては，採点後に返却を行う。

６．授業における学修の到達目標

スポーツ産業の成り立ちや全体像を理解し，個別具体的なスポーツ産業領域の現状を理解する。

また，スポーツ産業の諸領域における今日的課題について理解を深め，論理的に自分の意見を記述できるようにする。

７．成績評価の方法･基準

期末試験（50%），中間レポート及授業での課題（30%），授業態度（20%）をみて総合的に評価する。

８．テキスト･参考文献

教科書は特に指定しない。適宜，資料・プリントを配布する。

参考文献：原田宗彦　編著「スポーツ産業論第７版」（杏林書院，2021）

９．受講上の留意事項

特になし。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

経営戦略論		講義	教授　大澤　秀一	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの選択必修科目		科目ナンバリング	11310203

１．授業のねらい・概要

経営戦略論は，市場競争を勝ち抜いて経営目標を達成するための戦略を研究する学問です。事業領域・事業地域・事業内容の特定、市場での競争優位，変化する内部環境及び外部環境への対応、事業の役割分担などの視点から、成長戦略・競争戦略、機能戦略の考え方と実践方法を学びます。これらの学習により，受講生が引き続き経営戦略論の視点でビジネスに興味を持ち，学び続けるための知識や思考力を習得することがねらいです。

２．授業の進め方

授業は講義形態で行い，理解度を確認する小テストを３回繰り返しながら概ね以下の内容に沿って進めます。

３．授業計画

１．授業の概要説明	９．競争戦略　③先行優位／後発優位の競争戦略
２．成長戦略　①ドメイン	10．第２回小テスト
３．成長戦略　②企業間連携	11．機能戦略　①知的財産戦略
４．成長戦略　③イノベーション	12．機能戦略　②投資戦略
５．成長戦略　④ベンチャー企業／スタートアップ	13．機能戦略　③財務戦略
６．第１回小テスト	14．第３回小テスト
７．競争戦略　①マイケル・ポーターの競争戦略	15．総まとめ
８．競争戦略　②フィリップ・コトラーの競争戦略	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前配布される講義資料を予習し，あらましを把握してから授業に臨んでください。授業内容の定着と論点整理のための復習も重要です。予習・復習に２時間以上かけて疑問点や不明点が無くなるまで学修してください。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各小テストの次の授業で出題の意図と解答のポイントを説明します。

６．授業における学修の到達目標

経営戦略論の基本的な概念を学び，経営目標を達成するための計画や方法を体系的に理解することが目標です。

７．成績評価の方法･基準

授業への取組姿勢(50%)と小テストの結果(50%)によって評価します。

８．テキスト･参考文献

オリジナルの講義資料を使用します。必要に応じて参考文献などを適宜紹介します。

９．受講上の留意事項

初回の授業で説明します。授業への主体的な参加を期待します。疑問や不明な点については，遠慮なく質問して授業中か授業直後には理解し，持ち越さないようにしましょう。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，シンクタンクや金融機関における実務経験を活かして指導します。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

経営組織論		講義	教授　大澤　秀一	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの選択必修科目		科目ナンバリング	11310204

１．授業のねらい・概要

経営組織論は，組織の目標を効率的に達成するためには組織がどのような構造を持ち、運営され、管理されるかを研究する学問分野です。具体的には、組織の構造や文化，組織間関係，個人の役割，分業化，権限と責任の一致，定型・非定型業務の区別，命令統一性，モチベーション論、リーダーシップ論，意思決定論，評価手法などの方法について学びます。経営組織論を学ぶことで，会社組織のみならず，学校のゼミ，部活のクラブ，ＮＰＯなどのあらゆる組織の運営に応用することができます。

２．授業の進め方

授業は講義形態で行い，理解度を確認する小テストを３回繰り返しながら概ね以下の内容に沿って進めます。

３．授業計画

１．授業の概要説明	９．組織行動論　組織学習と組織変革
２．組織構造論　組織の基本概念	10．第２回小テスト
３．組織構造論　組織デザイン	11．人事システム　人的資源管理
４．組織構造論　外部環境対応	12．人事システム　人的資本経営
５．第１回小テスト	13．人事システム　労働関連法規
６．組織行動論　モチベーション理論	14．第３回小テスト
７．組織行動論　リーダーシップ論	15．総まとめ
８．組織行動論　集団行動と組織文化	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前配布される講義資料を予習し，あらましを把握してから授業に臨んでください。授業内容の定着と論点整理のための復習も重要です。予習・復習に２時間以上かけて疑問点や不明点が無くなるまで学修してください。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各小テストの次の授業で出題の意図と解答のポイントを説明します。

６．授業における学修の到達目標

経営組織論の基本的な概念を学ぶことと，身の回りの組織に応用できる実践的な力を習得することを目指します。

７．成績評価の方法･基準

授業への取組姿勢(50%)と小テストの結果(50%)によって評価します。

８．テキスト･参考文献

オリジナルの講義資料を使用します。必要に応じて参考文献などを適宜紹介します。

９．受講上の留意事項

初回の授業で説明します。授業への主体的な参加を期待します。疑問や不明な点については，遠慮なく質問して授業中

か授業直後には理解し，持ち越さないようにしましょう。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，シンクタンクや金融機関における実務経験を活かして指導します。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

経営管理総論Ａ		講義	教授　大澤　秀一	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの選択必修科目		科目ナンバリング	11310205

１．授業のねらい・概要

経営管理総論は，会社の各業務の現場を管理・運営（マネジメント）するための仕組みや手法を体系的に研究する学問です。具体的には、調達、生産，商品管理、販売，人事，労務、経理、財務などの各部署における目標設定，進捗管理，効率化，改善活動などマネジメント方法を学びます。前期に開講する「経営管理総論Ａ」は製造業の生産管理，小売業の販売管理，収益や資産を整理する財務会計管理を学びます。後期の「経営管理総論Ｂ」では人事労務管理，情報システム管理、財務管理を習得します。

２．授業の進め方

授業は講義形態で行い，理解度を確認する小テストを３回繰り返しながら概ね以下の内容に沿って進めます。

３．授業計画

１．授業の概要説明	９．販売管理　④物流輸配送管理
２．生産管理　①原則・規則と指標	10．第２回小テスト
３．生産管理　②生産計画	11．財務会計管理　①損益計算書
４．生産管理　③オペレーションマネジメント	12．財務会計管理　②貸借対照表
５．第１回小テスト	13．財務会計管理　③キャッシュフロー計算書
６．販売管理　①法律と都市計画と店舗形態	14．第３回小テスト
７．販売管理　②店舗・施設と地域経済	15．総まとめ
８．販売管理　③マーチャンダイジング	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前配布される講義資料を予習し，あらましを把握してから授業に臨んでください。授業内容の定着と論点整理のための復習も重要です。予習・復習に２時間以上かけて疑問点や不明点が無くなるまで学修してください。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各小テストの次の授業で出題の意図と解答のポイントを説明します。

６．授業における学修の到達目標

経営管理総論を構成するテーマを幅広く学び，経営現場で行われている基本的な管理活動を習得することが目標です。

７．成績評価の方法･基準

授業への取組姿勢(50%)と小テストの結果(50%)によって評価します。

８．テキスト･参考文献

オリジナルの講義資料を使用します。必要に応じて参考文献などを適宜紹介します。

９．受講上の留意事項

初回の授業で説明します。授業への主体的な参加を期待します。疑問や不明な点については，遠慮せずに授業などで質問しましょう。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，シンクタンクや金融機関における実務経験を活かして指導します。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

経営管理総論Ｂ	講義	教授　大澤　秀一	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの選択必修科目	科目ナンバリング	11310206

１．授業のねらい・概要

経営管理総論は，会社の各業務の現場を管理・運営（マネジメント）するための仕組みや手法を体系的に研究する学問です。具体的には、調達、生産，商品管理、販売，企画、人事，労務、経理、財務などの各部署における目標設定，進捗管理，効率化，改善活動などマネジメント方法を学びます。後期の「経営管理総論Ｂ」では従業員の人事労務管理，IT 技術を活用した情報システム管理、成長投資と資金調達のための財務管理を学びます。前期に開講する「経営管理総論Ａ」の単位を修得していなくても履修可能です。

２．授業の進め方

授業は講義形態で行い，理解度を確認する小テストを３回繰り返しながら概ね以下の内容に沿って進めます。

３．授業計画

１．授業の概要説明	９．第２回小テスト
２．人事労務管理　①働き方	10．情報システム管理　①製造業
３．人事労務管理　②賃金	11．情報システム管理　②小売業
４．人事労務管理　③人的資本	12．情報システム管理　③顧客関係管理（ＣＲＭ）
５．第１回小テスト	13．情報システム管理　④企業資源計画（ＥＲＰ）
６．財務管理　①成長投資	14．第３回小テスト
７．財務管理　②株主還元	15．総まとめ
８．財務管理　③資金調達	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前配布される講義資料を予習し，あらましを把握してから授業に臨んでください。授業内容の定着と論点整理のための復習も重要です。予習・復習に２時間以上かけて疑問点や不明点が無くなるまで学修してください。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各小テストの次の授業で出題の意図と解答のポイントを説明します。

６．授業における学修の到達目標

経営管理総論を構成するテーマを幅広く学び，経営現場で行われている基本的な管理活動を習得することが目標です。

７．成績評価の方法･基準

授業への取組姿勢(50%)と小テストの結果(50%)によって評価します。

８．テキスト･参考文献

オリジナル資料を使用します。必要に応じて参考文献などを適宜紹介します。

９．受講上の留意事項

初回の授業で説明します。授業への主体的な参加を期待します。疑問や不明な点については，遠慮せずに授業などで質問しましょう。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，シンクタンクや金融機関における実務経験を活かして指導します。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。